

みんなの環境

第44号 2019年4月5日

編集/発行 あつぎ環境市民の会
<http://atsugikankyo.g3.xrea.com/>

種子法廃止の先にあるもの～ 山田氏講演会から学ぶ

* 井上 允



あつぎ環境市民の会では、種子法廃止の先に見える様々な問題を学ぶために1月25日には印鑰智哉（いんやくともや）氏を招いて学習会を、また2月16日には、TPPとグローバリズムを考える市民の会（伊勢原市）が企画主催して、厚木市農業協同組合と当会が共催し、山田正彦（やまだまさひこ）氏（元農林水産大臣、弁護士）による「主要農作物種子法廃止による生産者・消費者への影響を考える」講演会を開催しました。

印鑰氏の講演では、種子法廃止の根源になっていると考えられる、モンサント社の遺伝子組み換え作物とセットの農薬グリホサート（商品名：ラウンドアップ）による、これから起こるであろう土壌汚染、人への影響などについて詳しく解説がありました。

山田氏の講演は、JA あつぎ本所をお借りして行ったもので、内容は印鑰氏の講演と重なる部分もありましたが、種子法廃止は特定のグローバル企業への便宜供与の措置の一つであり、公共機関で開発し守られてきた種子情報の企業への無償提供（農業競争力強化支援法の改定）や種子の自家採取の禁止（種苗法改定）、非GMO表示の実質禁止、ラウンドアップの残留基準値の大幅緩和、ゲノム編集の野放し方針なども併せて行われる措置であるとのことでした。

当日の参加者は144名、市内在住者が4割、市外が6割で、生産と消費でみると、生産者が2割、一般の消費者が8割という顔ぶれでした。アンケート回答者は104名で72%という高い回答率は参加者のこの問題への関心の高さを物語っています

アメリカやEU諸国ではすでにグリホサートの危険性が子を持つ母親層や女性層から問題視されて、有機栽培作物購買運動への転換が進んできているようですが、日本ではグリホサートの残留許容量を大幅に緩和するなど世界の潮流とは逆方向を向いていることは米国依存の政策の表れでしょうか。

モンサント社は昨年ドイツのバイエル社と合併しました。東京大学大学院教授・鈴木宣弘氏によれば、「バイエルとの合併は遺伝子組み換え食品を食べさせ病気になった人をバイエル社の医薬品で治す需要が増えるのを見込んだ「新しいビジネスモデル」との見解もある。従順な日本だけが世界で唯一最大の餌食にされつつある」とのことですが、ジョークであってほしいと願うばかりです

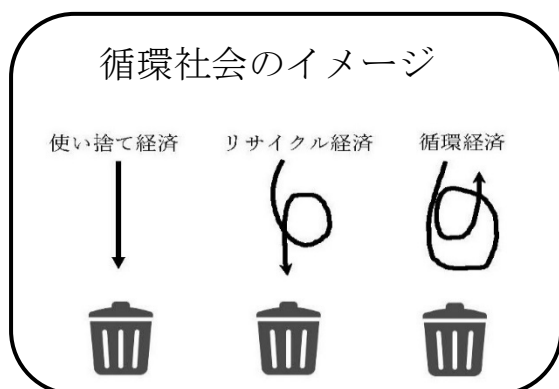
*（いのうえ・まこと あつぎ環境市民の会代表 厚木市上荻野在住）

ごみ処理のこれからを考える ～新しい政策を提案～

* 鷲谷雅敏

2015年に国連で採択された持続可能な開発目標（SDGs）は世界中の支持を集め、今や経済分野のみならず、あらゆる分野で重要な地位を占めてきました。地球温暖化においてもこれ以上CO₂を増やし続けない社会-脱炭素社会を目標とすることで真の持続可能な社会の構築が叫ばれています。

脱炭素社会を達成するため、ごみ処理の在り方も大きく見直しが必要になってきました。厚木市のごみ処理量はこの数年横ばいの状況ですがここから飛躍するためには大胆な政策の実施が不可欠となっています。



2021年度からの次期ごみ処理計画以降を見据えてごみ処理における基本政策を提案します。

- 1 ごみの分別と再利用・カスケード利用※の徹底 ※カスケード利用とは…
ごみ資源の品質に応じ多段階利用を指します
- 2 戸別収集の完全実施（ステーション収集の原則廃止）
⇒高齢化対策、排出者責任、不法投棄の防止、街の美観形成
- 3 ごみ排出量（資源を除く）に応じた手数料の排出者負担
⇒手数料負担によるごみ減量の推進
- 4 ごみ処理手数料負担額相当※の住民税を減税（※平成28年度の実績は約30億円）
⇒新たにごみ処理手数料は二重課税相当にならないよう留意される
- 5 ごみ処理費の収支に特別会計等の「見える化」の実施

（参考）厚木市の実績（平成28年度）

1kg単位当たりの経費＝3,073,586(千円/年) ÷75,989(t/年)＝40.45円/kg

1袋(40Lの場合) 当たりの経費＝40.45円/kg×40L/4.09kg(注)＝400円/大袋(40L)

(注) 環境省「一般廃棄物会計基準」による換算係数（重さkg＝容積L÷4.09）

*（さぎたに・まさとし あつぎ環境市民の会廃棄物部会 厚木市森の里在住）

素晴らしいゴミの分別処理

* デオカテ ディパリ



子供の頃からいつも環境のために何かをしたいと思っていた私は、故郷、インドの大学で環境工学を勉強し、その後、上下水道処理場の会社で働きながら、NGO（非政府組織）での活動もしていました。

その活動を通して、公立学校の子供たちに、地元の動物、植物、鳥類等を紹介し、更にその動・植物が、私たちの生活の中で大切な存在であることを学んでもらうための、ワークショップを実施していました。

夫と共に来日して 驚いたことは、人々がゴミを適切に分別処理していること、空気が澄んでいて汚染されていないこと、皆が狭いスペースでも植物を育てていることでした。また、多くの人々が公共交通機関を使うことで、大気汚染を減らす助けになっているなど、日本の人々の行動も、実に素晴らしいものです。もう一つ、私が素晴らしいと思ったことは、リサイクルショップで、これは廃棄物を減らすのにとても役立っています。その反面、1～2の改善点もあります。それは、プラスチックの使用量と水の使用量で、両者を少なくしていくことで、最終的には、処理プラントと地球への負担を減少させることに繋がると感じています。

(日本語訳：増子かおる)

From childhood I always want to do something for environment. So I have completed Environmental Engineering & worked in water and waste water treatment plant manufacturing company. Parallel I was working with NGO(Non-Governmental Organization).

Through NGO we used to conduct workshops for govt school childrens to make them aware about local plants,animals, birds & their importance in our life.

After we came to Japan I was surprised to see proper segregation & management of solid waste. Japan's weather is so clear & unpolluted. People do plantation in a very small space. Behavior of people in public is really appreciable. As maximum people use public transportation it reduce chances of air pollution. One more good thing is recycle shops, it really helps to reduce waste generation. But somewhere I felt that there are 1-2 things needs to be improved like reduction in use of plastic & use of water should be minimised because ultimately it increases burden on treatment plants & Earth.

* (Dipali Deokate インド共和国出身、厚木市岡田在住)

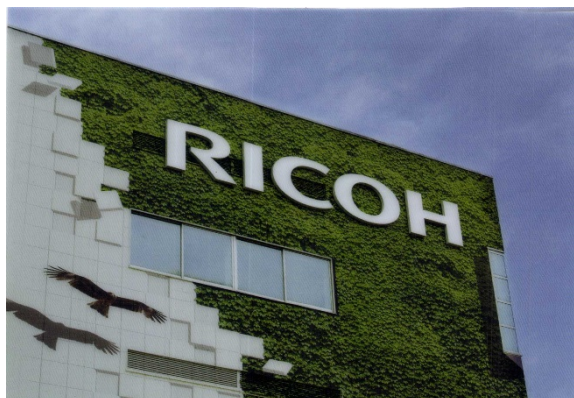
厚木市ごみ対策協議会研修

リコー環境事業開発センターを見学

* 櫻井進六

平成31年2月6日、小雨でしたが、協議会委員と市職員、総勢33名で、御殿場市の(株)リコー環境事業開発センターを見学しました。

同センターは、コピー機、プリンタのリニューアル、リサイクルを主たる業務として、同時に環境問題の研究も並行して行っています。



(株)リコーの営業の80%はレンタル業務なので、機器は回収されて、このセンターに帰ってくる特殊性は他社のリサイクルとは比較することは出来ませんが……

4段階の工程は徹底していました。

- ① 外装の点検と清掃
- ② 機械部品の点検と交換
- ③ 部品別に解体、点検、再利用
- ④ 廃棄する部品を素材別に分別

今後の方向として、エコ、環境問題に取り組み、国連で採択された“SDGs”を目標にしているとの事でした。御殿場市と提携して間伐材をチップにしての自家発電コーナーも見学しました。今後は環境事業を自治体と提携して進めていく事も視野に入れて活動していくとのことでした。

帰りのバスでやっと富士山と対面できました。考えることが多い一日でした。

* (さくらい・しんろく あつぎ環境市民の会廃棄物部会、厚木市七沢在住)

あつぎ市民発電所 だより

あつぎ市民発電所
理事長 遠藤睦子

「あつぎ市民発電所」の第1号機発電所は、太陽の恵みを畑の作物と発電で分かち合うソーラーシェアリングの形で飯山の畑に設置します。春先の耕作前に発電設備の設置を目指していましたが、諸事情から間に合わず、今年の作物収穫後、晩秋～年末に作ることにしました。

市民の手で再生可能エネルギーを普及していく活動に賛同していただける会員とサポーター会員を募集しています。また2号機、3号機と増やしていきたいと考えています。資金協力や場所(農地やマンションなどの屋上など)を貸していただける方を求めています。ぜひご協力をよろしくお願いいたします。

(連絡・問い合わせ先：遠藤睦子 080-1010-4759)



ヤマユリ再生プロジェクト～生息状況調査

厚木市上荻野地区 2018.7

No.2
個人所有山林

No.3
個人所有山林

No.4
個人所有山林

No.1
個人所有山林

いずれの生息地も個人所有山林であり、下刈りなど手入れがなされています。2019年から各地域で採取した種子で増殖を進め、各エリアに順次広げます。

2018年7月、市内上荻野地区でのヤマユリ生息状況の調査を荻野自然観察会の協力を得て行いましたが、確認できる生息エリアは少なく里山のいたるところに咲き誇っていたかつての姿は見られませんでした。

本年から取り組む増殖はそれぞれの地域の遺伝子のかく乱を最小限に抑える方法で進め、10年後の荻野の里山にヤマユリの群生が普通に見られるよう、地域でその地を守る仕組みを構築していきたいと考えています。

(井上 允)

○ 2019年度定時総会のお知らせ

次の日程で定時総会を開催します。

会場は、今年1月27日にオープンしたあつぎ郷土博物館です。

総会終了後、記念講演と施設見学を予定しますので多数のご出席をお願いします。

当日は新規の入会登録をはじめ年会費（1,000円）納付も対応します。

日 時 2019年4月24日（水）13:00～15:00

場 所 あつぎ郷土博物館 厚木市下川入1366-4 電話046-225-2515

- 内 容
1. 会員登録、会費受付
 2. あつぎ環境市民の会、定時総会
 3. 記念講演 講師：門田真人氏
 4. あつぎ郷土博物館 施設見学

○総会記念講演会

演題：「日本列島の下に沈み込めなかった丹沢山地・

太古の昔は南の海の火山島だった」

会場と時間：あつぎ郷土博物館 体験学習室2 13:45～14:30（予定）

入場方法：無料、会員以外の方も聴講可（当日直接会場へ）

講師：門田真人氏プロフィール

長年にわたり、丹沢化石調査・普及・保全活動にかかわり丹沢の生い立ちの証拠を発見。2016年、伊豆・丹沢の地史解明への活動に対して日本地質学会関東支部から功労賞。2017年NHKスペシャル「ジオジャパン」伊豆弧衝突番組の制作協力。あつぎ郷土博物館新設検討委員会で開館まで5年間にわたり協力。元神奈川地学会長。現在、神奈川県立生命の星・地球博物館外来研究員。



（写真：丹沢水棚沢・枕状溶岩と門田氏）

「あつぎ環境市民の会」入会のご案内

あつぎ環境市民の会では想いを共有する仲間を募集しています。入会ご希望の方は下記までお問い合わせください。

問い合わせ先：〒243-0122 厚木市森の里 3-4-3 鷺谷（さぎたに）方 あつぎ環境市民の会

電子メール：pxa05613@nifty.com ケイタイ：090-7243-9254

会 費：年会費 1,000 円 郵便振替口座：00200-7-132779 加入者名：あつぎ環境市民の会

みんなの環境 第44号 2019年4月5日発行

編集・発行 あつぎ環境市民の会 代表 井上允 / 制作 長岡恂

e-mail：mkt.inoue117@gmail.com

事務局 〒243-0122 厚木市森の里 3-4-3 鷺谷雅敏方

e-mail：pxa05613@nifty.com ケイタイ：090-7243-9254

郵便振替口座 00200-7-132779（年会費 1000円）

（C）あつぎ環境市民の会 2019